

切磋琢磨Ⅲ

R2.10.2 第23号

新学習指導要領に基づいた新しい通知表 ～新3観点とは？～

本日、通知表を配付しました

本来ならば1学期末に渡す通知表ですが、今年度は臨時休校により十分な評価をする時間が不足しているため、本日お渡しすることになりました。

ご覧になると、今までの通知表と大きく変わっていることに気づくと思います。変更点を紹介しながら、通知表の見方の補足説明をします。

今までの4（国語は5）観点が3観点へ

下記の表のように、観点が3つになりました。

観点別学習状況の評価の観点の整理



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理。



① 知識・技能

・個別の知識及び技能の習得状況を評価する
→概念等として理解したり技能を習得したりしているか
例:ペーパーテストでの点数や知識や技能を用いる場面
(文章や口頭での説明、観察や実験の様子、式やグラフで表現する等)で評価する

② 思考・判断・表現

・課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。
→知識及び技能を活用して課題解決をめざしているか。
例:論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動で評価する。
ポートフォリオ※を活用して評価する。
※イメージは「学びのアルバム」。日頃の授業の振り返りや作品(学習成果物)を蓄積したもの。子どもの学びの成長がこれらの履歴からわかるもの。

今までは、知識・理解と技能は別々の観点でしたが、今回は知識・技能が1つの観点到集約されました。

③ 主体的に学習に取り組む態度

・上記の①②を身につけることに向けた粘り強い取り組みが見られるかを評価する。

・自分からの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

例:ノートやレポート等における記述、授業中の発言、自己評価・相互評価等や、行動観察は教師が評価を行う際に考慮する材料とする。

→①②の観点の状況を踏まえたうえでの評価であり、ノートにおける特定の記述などを取り出し、①②の観点から切り離して評価することはしない。

評価 ◎ 十分に満足する

○ おおむね満足できる

△ もう少し努力を要する(1年は○△のみ)

それぞれの観点が、どのような場面で評価されたものであるか、少しはイメージできただでしょうか。この通知表に記載されている評価が、

① 子ども自身の学習改善につながる

② 教師の指導改善につながる

ものになるよう、それぞれの観点を明確にして評価します。

評定(3年以上)は観点別評価の総括したものです。評定については、昨年度までの通知表とは変わりません。3年以上は、評定をA/B/Cで表しています。1,2年は評定を記載していません。

道徳・総合的な学習の記録・総合所見は学年末のみ。昨年度までの通知表に記載されていた所見や学習の様子は、学年末のみ掲載となります。1,2学期の通知表には記載がありません。

通知表は、お子さんの学習や生活の様子をお知らせするものです。そこには◎○△やABCという記号が記載されていますが、あくまでも現在における目標への達成度を示しているものです。この記号で良し悪しを判断するのではなく、お子さんなりの意欲や頑張りを聞きとり、これからの学習に生かしていけるような声かけをするために、この通知表をご活用ください。